

編集後記

ここに『北の丸』第四十七号をお送り致します。所収する論文等の概略は以下のとおりです。

【論文・研究ノート】

「人事院移管文書の基本的性格」は、人事院における組織構造と文書管理及び文書の移管基準と当館への文書移管実績との関係を分析し、人事院移管文書の特徴を明らかにしたものです。第一章では、人事院における文書管理の変遷を概観し、人事院で作成・取得、保存・管理された文書群がどのような構造を有するかを検討し、第二章では、前章で明らかにした文書群の構造の中に移管文書を位置づけ、その特徴を明らかにしています。

「国際標準に基づくアーカイブズ所蔵機関情報記述の試み②」は、国際公文書館会議 (ICA) が二〇〇八年に発表した「アーカイブズ所蔵機関の記述に関する国際標準」(ISDIAH)に基づき、宮内庁宮内公文書館・外務省外交史料館に関する記述を試みたものです。なお、この記述の試みは、当館の統括公文書専門官室が担当しました。

【資料紹介・翻刻】

『思忠志集』件名細目(下)は、旗本の天野長重(一六二一～一七〇五)が遺した『思忠志集』全二十二冊について、その成立の経緯と天野長重の履歴等を紹介し、あわせて本文に補記された件名を順に列挙したものです。『思忠志集』は、長重が四十年以上にわたって書きとめた教訓・見聞・政策論・健康法等を収録し、その件数は二〇一五件、江戸時代前期の世相と風俗、そして武士の生活や思想を知る一級の史料といえます。なお、本稿の前編は第四十六号に発表しています。

「当館所蔵の「絵入り本」解題③」は、貴重な古写本の陰に隠れて手つ

かずの状態となっていた「絵入り本」(本文に挿絵や図版などが添えられた書籍)について、書誌情報や内容などを解説したもので、第四十五号から発表しているものです。

『視聴草』所収国文学系資料解題①は、江戸時代後期の幕臣である宮崎成身が編纂した『視聴草』に収録された資料のうち、物語や和歌など国文学分野に該当する資料について、書誌情報、解説を記したものです。なお、本稿が対象とした資料は当館が所蔵する『視聴草』の稿本で、長く成身自身の手元にあつたものであり、成身が自ら写した書物や、収集した小冊子一八〇〇点あまりの資料が一七八冊に合綴されています。

「当館所蔵林羅山旧蔵書(漢籍)解題①」は、当館が所蔵する漢籍のうち、林羅山(はやし・らざん)が所蔵していた書物を調査したものです。林羅山の蔵書は「明暦の大火」によって焼失してしまいましたが、幸いにも二人の息子に分与していた書籍が焼失を免れ、現在では四三七部四三八五冊の漢籍が当館に収蔵されています。後半部に附した一覧表は、現在当館が所蔵している林羅山旧蔵書(漢籍)の一覧表であり、前半部の解題は、この一覧表のうち特筆すべき事項のある書物の解説です。

また当館では、所蔵資料をあるテーマに沿って展示した特別展を毎年開催しており、来館者の皆様からご好評をいただいております。「展示会報告」は、平成二十五年秋・平成二十六年春に行われた展示会の概略を報告したものです。

来館が難しい方々にも当館の資料が利用できるよう、当館ではデジタルアーカイブの充実を図っています。是非、ホームページをご覧ください。

ホームページのアドレス：<http://www.archives.go.jp/>

(土屋)